

要 望 書

東京大学総長選考会議

議長 小宮山 宏 殿

委員 各位

先生におかれましては、次期総長の選考という重責を担われ、ご多忙な日々を送っていらっしゃるものと拝察いたします。

私たちは以前、理事として大学執行部に参加した者であり、退任後も東京大学の発展を願い、その活動に注目してまいりました。その意味でも、今回の次期総長選考には多大の関心を抱いております。

その中で、本年9月16日付で東京大学教員有志から先生宛に提出された質問状、それに対し同9月23日付で先生が出された回答、ならびに同日に東京大学教員有志から再度出された公開質問状を拝見しました。

このやりとりにおいて、第2次候補者を従来よりも少人数としたこと、第1次候補者の氏名が公表されていないこと、第2次候補者の氏名についても取り扱いに留意するよう求められていること等について、その説明が求められています。特に第2次候補者の氏名までもが学内公開のみで取扱注意とされた前例はなく、私たちから見てもこの措置には疑問を禁じ得ません。

先般、自由民主党の総裁選挙が行われましたが、この選挙においても候補者の氏名は「有権者である党员のみ」ではなく、広く社会に公表されました。実質的に一国の首相を選ぶのと一大学の総長を選ぶのでは重みが違うと言われるかもしれませんが、先生ご自身、本年4月28日付の談話で「本学の運営を総理する総長に対しては、学内のみならず、日本、世界から大きな期待が寄せられている」という認識を述べておられます。そうであるならば、「学外の意見を取り入れる環境に対応することはない」という先生のご回答は、この認識と真向から矛盾するものと言わざるをえません。大学にとって極めて重要な総長選考手続きに関して、学内からこのような疑問が表明されている以上、ぜひ真摯かつ明快なご説明をお願いしたいと思っております。

そのうえで、私たちは先生と教員有志とのやりとりの文面だけでは事情がよくわかりませんでしたので、学内の複数の方々にインフォーマルにお尋ねしました。その方々によると、部局から選出された代議員による第1次候補者の選挙において、2位に大差をつけて1位となった方が、第2次候補者に残っていないとのことです。そして、その理由が学内の教職員にはまったく説明されていないとのことです。また、第1次候補者としては文系の候補者も女性の候補者もいたにもかかわらず、東京大学が全学を挙げて目指しているはずの「多様性」の確保という観点はほとんど尊重されなかったとも仄聞します。

もちろん、第1次候補者の得票数がそのまま第2次候補者の選考に結びつくものでないことは、私たちも十分に心得ておりますし、選考会議ではおそらく、専攻分野や性別等の「多

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]

[REDACTED]